



■3D教育プログラムを導入した経緯を教えてください

もともとは高校におけるキャリア・デザイン教育に向けた取り組みの一環として導入を開始しました。このキャリア・デザイン教育は大学進学だけでなく、将来の職業までを見据えた教育です。そこへつなげていくために、まず中学生の段階で、「自分を知る」ことの必要性を感じ、導入開始の初年度（2006年度）は、試験的に1学年のみでスタートをしました。

また、自分を知ると同時に、もう一つ、最近の中学生において必要だと感じていた点は、コミュニケーション能力を身につけることでした。

本校は英語に力点を置いた教育環境にあります。そのため、こうしたコミュニケーション能力の必要性を、特に強く感じていたんです。コミュニケーション能力を伸ばすという点で、本校のニーズと合致していた部分が3D教育プログラムにあったと思います。

■中学校としてどのような体制で取り組んでいますか？

現在は、3学年全体で3D教育プログラムを実施しています。年間の

プログラム導入当初から比べると、だいぶ変わったと思います。

また、エゴグラムについても、自分のエゴグラムが改善することに対して、意識を持って取り組んでいる生徒が増えてきました。エゴグラムを通して、日常的に自分の行動を「振り返る」姿勢が身に付き、また、目標を持つて行動することで、それらが結果としてエゴグラムの改

善に結びついています。

生徒にとってもこうした目に見える変化が、モチベーションを向上させることにつながっていると思えます。

■教員の立場から見た3D教育プログラムのメリットや課題は？

我々教員の立場から見た場合、こ



“自分を知る”ことにつながる 3D教育プログラムの導入

インタビュー 入試広報室 穴戸 学 先生

実施計画を立て、それに沿って実施していくのですが、年間計画を立てるにあたり、本校では3学年が同日の同時時間帯で行なうことを前提に年間のスケジュールを組むようにしています。そこで、各学年の学年主任が集まって、日程を調整し、年間のスケジュールを決めています。

その後、各学年ごとにテーマを決めていきますが、これは年間の時期や行事を見据えながら、その時期に合った内容をテーマとしてピックアップして年間計画に組み込んでいきます。例えば、今回の場合、定期的に学校行事として芸術鑑賞会を控えていたため、外部での行動を意識する意味で、「マナーについて考える」の教材を行なうようにしました。



の3D教育プログラム、特にグループコミュニケーションは、教材として非常に活用しやすいものだと思います。テーマ、内容が揃っているだけでなく、進行例までに及んでいるため、ある意味で誰でも活用でき、教員のスキルの差を生じさせることなく、進めていけるプログラムだと思っています。また、学年全体としても、統一した学習指導を推進することが可能です。

教員によって、教材の内容にバラツキをして、より導入しやすい、生徒の興味を引き出しやすい内容にしたりなどの工夫をする教員もいます。それはそれでももちろん良いのですが、やはり、教材としてのベースラインが整っていることが、教員から見た場合、とても活用しやすく、取り組みやすいメリットであるといえるでしょう。

取り組みにおける課題としては、やはり実施回数です。プログラムの種類も豊富に多岐にわたっていますので、いろいろと活用したいとは思っているのですが、どうしても他の授業や学校行事との兼ね合いで、実施時間が限られてしまう現実があります。

今後そうした時間の取り方については、検討が必要などころではありますが、いずれにしても、現在の中学3年生が初めて3年間にわたって、3D教育プログラムを経験してきた学年であります。

また、年間を通して、なるべくCPやNPなど、バランスよく取り組めるような年間計画を立てるようにしています。

■実際にプログラムを導入してみて何か変化を感じましたか？

目に見えての変化というよりは、プログラムに対して前向きに捉えて取り組む生徒が増えてきたのを実感しています。毎回のグルコミの授業を楽しみにしている生徒が増えてきているんです。

普段、おとなしい生徒で、なかなか自分の意見を言うように言わない生徒であっても、このグルコミの授業になると、自分の意見をグループ内でしっかり言っている姿が見られます。グルコミの仕組みそのものが意見を言う形に必然的になっているため、意見を言いやすい場面なのかもしれません。それが生徒にとって、段々と喜びになってきているのではないかと思います。

また、中学1年から3年になるにつれて、意見を聞く姿勢に変化が感じられます。中学1年生の場合、どうしても人の意見を聞くよりは、自分の意見を述べることを先行してしまいがちです。しかし、このグループコミュニケーションの授業を経験してきている中2、中3と学年があるにつれて、人の意見を聞く姿勢が身に付いてきたと感じています。

その意味では、この学年が高校に行き、一人ひとりがどういった点で将来に向けて生かされたか、この部分を見極めながら、今後の更なる効果を期待したいです。

★『3D教育プログラム』でココが変わった！

- ・人の意見を聞く姿勢を持つ生徒が増えてきた
- ・自分の意見を言う機会を大事に活用している
- ・振り返りやマイチャレンジを通してエゴグラムの改善を意識する生徒が増えてきた